

授 業 名 科 目 名	吃音	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	2年（後期）
担 当 教 員 名	仲山 晃生	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>授業は、吃音の症状、進展段階、心理的問題等について区分しながら言語聴覚士としてどうかかわっていくかを学んでいく。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>小児の吃音に対する接し方とともに成人吃音に対する訓練や対処法が理解できる。</p>		
授業回数	授業内容		
第 1 回	吃音とは何か 流暢性障害の概念と分類について		
第 2 回	原因論 吃音の発症メカニズムと理論的背景について		
第 3 回	中核症状とその他の非流暢性 吃音に特徴的にみられる中核症状および、非吃音児・者にもみられるその他の非流暢性について		
第 4 回	二次的症狀 吃音の症状は発話の非流暢性そのものである「言語症状」だけでなくそこから派生する二次的症狀がある。その種類と内容について解説する。		
第 5 回	心理的問題 吃音の症状には観察可能な症状と目に見えない心理的な問題もある。その心理的な問題に至る過程も含めて解説する。		
第 6 回	進展段階 吃音が自然治癒しなければ時間の経過とともに症状が進展する特徴を持つ。その進展段階について解説する。		
第 7 回	評価 目的、情報収集手段など吃音評価のプロセスを解説する。		
第 8 回	吃音検査法 日本で唯一の吃音検査である「吃音検査法」を取り扱う。		
第 9 回	グループワーク 症例を見て検討し発表		
第 10 回	訓練指導① 治療の原則と流れおよび、幼・小児期の発達性吃音の治療について解説する。		
第 11 回	訓練指導② 幼・小児期の発達性吃音の治療に用いられる各種訓練法について。		
第 12 回	訓練指導③ 幼・小児期の発達性吃音の治療における間接訓練及び心理面への対応について。		
第 13 回	訓練指導④ 思春期・成人期の吃音の治療について、各種訓練法を紹介する		
第 14 回	獲得性吃音・クラタリング それぞれの特徴を発達性吃音との違いを交えて説明する。		
第 15 回	関連法・セルフヘルプグループ 吃音当事者にとってセルフヘルプグループは大きな意味を持つ。内容について紹介する。		
評価方法	定期試験にて評価（100%）		
教科書 参考図書	〔教科書〕 エビデンスに基づいた吃音支援入門 菊池良和		
履修上の 留意点	なし		
メッセージ	なし		